

「看護師になりたい。」

小学生の頃から、変わらず思っている私の夢です。看護師は、患者さんの生命と生活を支える仕事ですが、仕事という一言に収まり切らない使命のようなものがあると私は思っています。

私が看護師を目指すきっかけとなったのは、あるテレビ番組を見たからです。それは、ミャンマーで治療にあたっていた「ジャパンハート」を特集した内容で、そこには、日本の医師や看護師が現地の人を懸命に手術している姿が映し出されていました。

ミャンマーの病院は、私が知っている日本の病院とは全く違う、とても質素な造りのものでした。衛生的にも決して恵まれたものではありません。私が一番驚いたのは、手術をしている隣で、患者さんの体に虫が入らないようにと、虫取り網を使ってハエを捕まえているスタッフがいるのを見たときです。「こんな環境で、病と闘わなくてはならない人がいるのか。」あまりの衝撃に、私は声を出して驚いてしまいました。

ミャンマーの病院のこの状況は私の予想をはるかに超えた深刻なものでした。「人が足りない。」「薬が足りない。」「医療道具や環境が整っていない。」このような過酷な状態で治療を受けなくてはならない国は、世界中に約百五十カ国もあるそうです。「すべての人が、十分な医療を受けられる世界になってほしい。ほんの少しでもその力になりたい。」その時、私の夢がはっきりと決まりました。

強く、看護師になりたいと思うようになってから、ジャパンハートのことをもっとくわしく知りたいと思い、ホームページを見ました。そこで初めて知ったこと。それは、ジャパンハートのメンバーは、ボランティアで構成されているということでした。その上、自分のお金で現地に行っているのだそうです。彼らはきっと、仕事として医療を提供しているのではなく、少しでも多くの人々の力になりたいと思って頑張っているのだと確信しました。

ジャパンハートを知って、私は、彼らに少しでも近づき、すばらしい看護師になりたいと、より強く思うようになりました。「患者さんを笑顔にしたい。」「患者さんとその家族にとって最高のパートナーになりたい。」そして、より多くの人々の、できれば世界中の人々の手助けができればと思います。

少しでも早く、たくさんの人々の力になれるようにするために、中学生の今から少しずつ努力していきたいと思っています。それは優しさと強さを兼ね備えた人間になるということです。友達や家族に優しくすることが少し気恥ずかしく思ったり、分かっているけど行動する勇気がなくて、一歩踏み出せなかったりすることもあります。良いことをするときには、自信をもって堂々とできるようになりたいと思います。それから、将来、日本の外に出て医療に携わることができるようになったときのために、英語の勉強をもっと頑張りたいと思います。

今の私は、まだ看護師に憧れているだけで、足りないことも知らないことも数多くあります。それでも、何よりも大切な人の命を守りたいという気持ちは強く持っています。ジャパンハートのホームページに書いてあった「一番格差があってはいけないのは、医療だ」という言葉を胸に刻んで、日々努力していきたいです。